

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 132	提案機関名 長井町漁業協同組合
<b>要望問題</b> ヒジキ養殖について	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 長井地区では、毎年4月にヒジキを収穫しておりますが、収穫量は年々減少傾向にあります。一方、ワカメは、天然ワカメの収穫だけでなく、養殖することにより、漁業者の冬場の安定した収入源となっております。そこで、ヒジキについても、安定的な生産体制を築くため、ヒジキ養殖の実用化に向けて、試験に取り組んでいただきたい。	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業技術センター②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	水産技術センター	<b>担当部所</b>	企画資源部普及指導担当
<b>対応区分</b>	①実施   ②実施中   ③継続検討   ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応   ⑥現地対応   ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b> (①、②、④の場合) 漁業の担い手育成事業			
<b>対応の内容等</b> 他県では、11月に天然に繁茂するヒジキの幼芽を摘み取り、ワカメと同様に縄に固定することにより養殖している事例があります。しかし、本手法に取り組む場合、各浜でヒジキの解禁日（3月下旬～4月上旬頃）が設定されているため、ヒジキ養殖試験用の解禁前の採苗について漁協内で調整されれば、指導してまいります。 一方、熊本県では、安価なコンクリート建材ブロックにヒジキの種付けを実施している事例があります。これは、ヒジキ養殖用の種苗生産やヒジキが繁茂していない地区への増殖等に有効な技術とと思われますので、必要に応じて情報収集し、その手法等について普及指導してまいります。			
<b>解決予定年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内		
<b>備考</b>			